

このたび菊池康郎先生から全日本囲碁協会の理事長職を引き継ぎました平岡です。偉大な菊池先生の後任ということで身の引き締まる思いです。よろしくお願いします。

菊池先生は皆さんご存知のとおりアマチュアとして数々の素晴らしい戦績を残されました。と同時に、緑星学園を主宰して多くのプロ棋士を育てる等、指導者としても大いに手腕を発揮されました。私は直接の弟子ではありませんでしたが、小中学生の春・夏休みには学園に住みこみで勉強しましたので、その頃から先生には大変お世話になりました。

先生には盤上の技術よりも精神面を鍛えて頂いたように思います。「マネをするな」という言葉が特に印象に残っています。これは、最初からマネをするなということではなく、「マネを続けて楽をするな」「マネした内容に自分の工夫を加えなさい」と言いたかったのだと解釈しています。

囲碁は毎局、そのつど新しい局面に出会います。そこで自分なりに考え次の一手を打ち続けることは囲碁の楽しみでもあり苦しみでもあります。会社でも同じでした。最初はマニュアルで仕事を覚えますが、やがてその内容を理解して今の時代に合うものに作り変えなければなりません。そして先生の教えが今、コロナ禍で未経験な局面が続くからこそありがたく感じています。まるで1局の碁のように一寸先も見えないなか、自分で考え自分で答えを出して行動する。チャレンジを繰り返して成長をめざす。こうした姿勢を先生から教わったことは私の社会人人生の礎となっています。

さて全碁協はここ2年間ほどコロナ禍にあって活動を縮小せざるを得ない状況でした。また現在コロナの第6波が進行中であり、今後も大規模なイベント等の制限は続くことが予想されます。そのような中、今回全碁協は理事メンバーが若返りを果たしました。先輩方の知恵や経験にはまだまだ及びませんが、チャレンジ精神旺盛な面々です。いま今後の全碁協の具体的な活動について議論を深めています。これから随時公表していきますので大いに期待してください。

隣の将棋界では藤井聡太棋士のタイトル戦が連日ニュースにとりあげられているのに対して囲碁界の報道が少ない事は私も残念に感じています。こうした一般メディアへの露出をどのように増やしていくか。大きな視点からいえば囲碁というブランドをどのように社会に浸透させていくか。これが今後の全碁協がとりくむ柱のひとつであることは間違いありません。簡単な道のりではないこと、重々承知していますが、全国の碁会所の皆様、インストラクターや日々囲碁に関わっておられる皆様の問題意識やアイデア、創意工夫を共有し、協力しあいながら活動を進めていけば、必ず道が開けてくると信じております。会員の皆様におかれましても、ご意見、アドバイスをはじめ、様々な場面でのご協力を頂け

れば幸いです。

菊池先生は会議や打ち上げの最後には必ず、「まあ楽しくやりましょう」と笑顔でおっしゃっていました。私はその点も引き継いで、全碁協の活動を通じて囲碁ファンや活動に参加している皆様が楽しめるように努力していく所存です。至らない点も多いと思いますが、引き続きお引き立てのほどよろしく願いいたします。

一般社団法人全日本囲碁協会
代表理事 平岡 聡